

1

経済のしくみとビジネス



- 1 わたしたちはどんな経済活動をしているのだろうか？
- 2 ビジネスの役割ってなんだろう？
- 3 経済活動の基本的な考え方ってなんだろう？

1 わたしたちの生活と経済

みなさんは、「経済」ということばをよく聞くとおもう。ここでは、わたしたちの生活と経済が深くかかわりあっていることを理解したうえで、経済の意味と、経済主体と経済の循環（じふんかん）の関係をみてみましょう。

5

1 わたしたちが行う経済活動

❶ 売買の対象となるものが商品です。本書では、商品は「もの」（有形財）と「サービス」（無形財）を含むものとします。

わたしたちの家庭では、一般的に、家族のうちのだれかが会社などで働いて得たお金（所得）で、生活に必要な商品（ものやサービス）を購入して、毎日生活しています。

CASE

CASE 「もの」の購入と「サービス」の購入

わたしたちはふだんの生活のなかで、お茶やおにぎりを購入したり、スニーカーを購入したりします。お茶やおにぎり、スニーカーなどは形のある商品なので、これは「もの」の購入です。

一方、バスに乗ったり、美容院で髪を切ってもらったりするとき、お金を支払います。バスの乗車や髪を切ることなどは形のない商品なので、これは「サービス」の購入です。



「もの」の購入



「サービス」の購入



10

15

20

商品の購入は日常のごくあたりまえのことなので、みなさんはふだん特にそれを意識しないかもしれません。

ここでちょっと考えてみましょう。店頭に並んでいる食料品などは、わたしたちが自分でつくったものではありません。わたしたちは、だれかがつくった商品（ものやサービス^①）を購入し、消費^{consumption}して生活を営^{いとな}んでいるのです。

2 経済の意味

こんにちでは、わたしたちの身のまわりに多くの商品（ものやサービス）があふれ、とても豊かな生活を送れるようになっています。

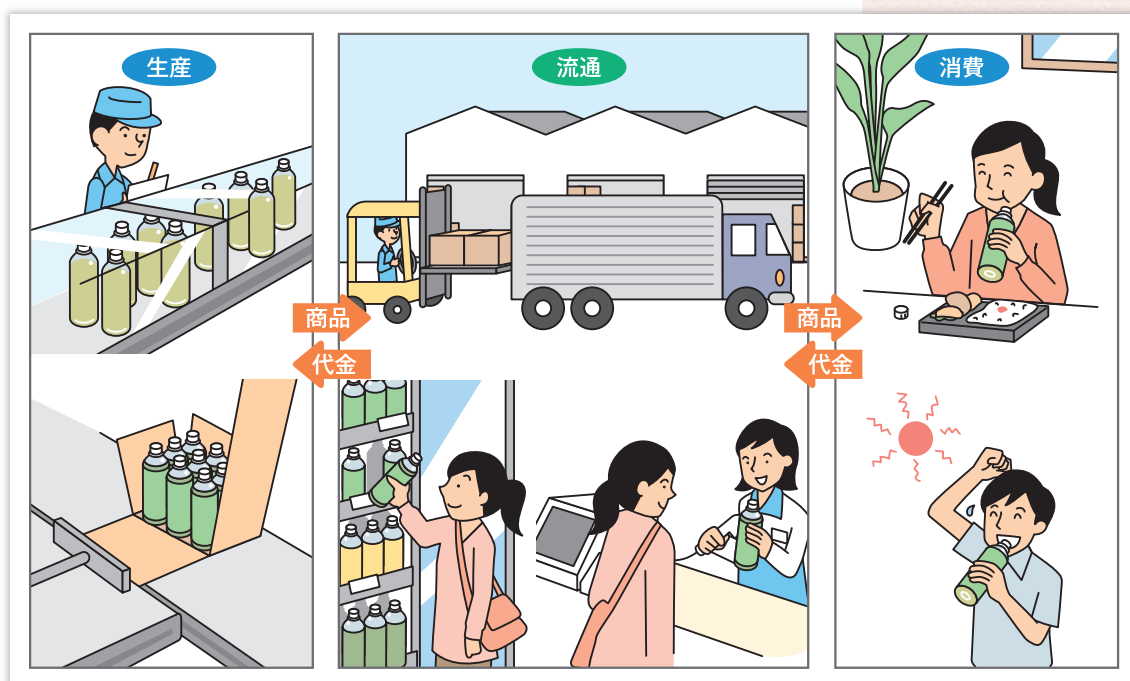
こうした豊かな生活を営むことができるのは、さまざまな商品（ものやサービス）を効率よく生産^{おこな}する活動が行われているからです。

そして、生産された商品（もの）を、生産者から消費者へ届けるといった流通^{distribution}の活動によって、わたしたちは欲しい商品（もの）を手に入れ、消費することができます。

このように、消費を中心としたわたしたちの生活は、生産と流通の働きによって支えられていることがわかります。この生産・流通・消費^{いちれん}の一連のつながりを、経済^②といいます。

① サービスを「つくる」とは、サービスを提供することを意味しています。

② 「世を経（おさ）め、民を済（すく）う」という意味をもつ「経世済民」を略したことです。



3 経済主体と経済の循環

次に、わが国全体をながめて、経済の循環^{じゆんかん}するようすをみてみましょう。

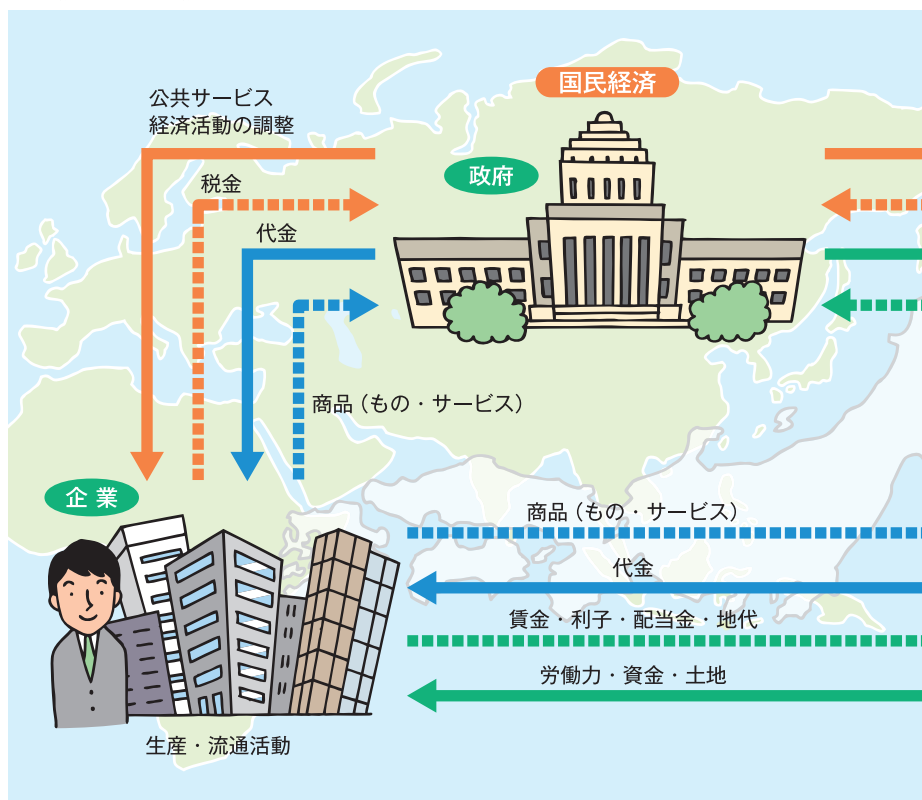
生産・流通・消費といった経済活動^{おこな}を行う主体を、**経済主体**といいます。国の経済は、家計・企業・政府という三つの経済主体によって構成されています。

家計^{households}は、わたしたちの家庭を、消費を行う経済主体としてとらえたものです。家庭では、家族のだれかが企業などに労働力を提供して賃金^{ちんぎん}を得たり、資金を提供して利子・配当金^{りし はいとうきん}を受け取ったり、土地を提供して地代^{じだい}を受け取ったりしています。そして、その収入^{しゅうに}によって、企業などから商品を購入して消費し、生活を営んでいます。

企業^{firms}は、おもに生産・流通を行う経済主体といえます。家計から労働力・資金などの提供を受けて、商品の生産・流通を行い、そこから得た利益を活用して組織を維持し、発展させています。

❶ 労働の対価として、労働者に支払われる金銭です。給料ともいいます。

■ 経済主体と経済の循環



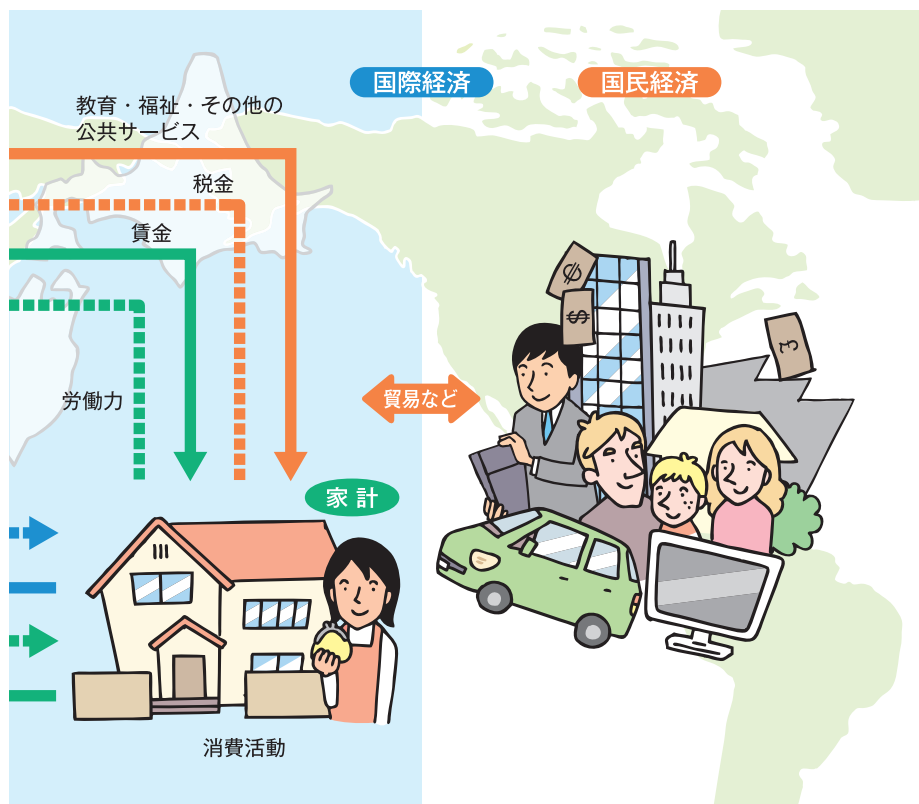
^①政府^{government}は、国や地方公共団体^②を経済主体としてとらえたものです。
家計や企業から税金^{ちやうしやう}を徴収して、教育・福祉・その他の公共サービスを提供したり、経済活動の調整^③をはかったりしています。

この家計・企業・政府という三つの経済主体が、それぞれの経済活動^{おこな}を行い、それらが循環^{じゆんかん}してたがいに結びつくことで、国の経済が成り立っているのです。

この経済のしくみを一国でとらえたものを**国民経済**^{national economy}といいます。
また、一国の経済はほかの国々との貿易^{むい}などによっても支えられています。ほかの国々との結びつきも含めて経済をとらえたものを**国際経済**^{international economy}といいます。

4 経済の発展を担う企業の活動

このような経済のしくみにおいて、経済の発展に対して特に重要な役割^にを担っているのが、ビジネスを行う企業です。ビジネスは、経済を成り立たせ、活性化^{かつせい}させている最も基礎的な活動です。



① 財政という場合もあります。

② 地方自治体ともいい、都道府県、市町村などをいいます。

③ たとえば不況のときには、公共投資を増やして雇用を創出したり、減税を行ったりして、家計や企業にお金が行き渡るようにします。

2 経済を支えるビジネス

わたしたちが生活する社会では、生産・流通・消費にかかわるさまざまなビジネスが行われています。ここでは、ビジネスの例についてみていきましょう。

1 ものを生産するビジネス

商品を生産するビジネスには、ものを生産するビジネスと、サービスを生産するビジネスがあります。このうち、ものを生産するビジネスでは、品質を向上させたり、より安い価格での提供を可能にしたりすることで、付加価値^①の高い商品（もの）を開発し、消費者に提供しています。最近では、環境への配慮にこだわった商品（もの）も多くみられます。

① 商品の生産・流通の各段階で、新たに付け加えられる価値です。たとえば、腕時計では「時刻を確認する」という基本的な機能に、防水機能を付けたり、軽量化して価値を高めたりすることがこれにあたります。

② 一般的に、サービスは「提供する」といいますが、経済を学ぶうえでは、形のあるものと同じようにサービスも「生産する」といいます。

2 サービスを生産するビジネス

サービスを生産するビジネス^②としては、飲食店や旅行業、スポーツクラブ、介護サービス、保育サービスなどがあげられます。また、企業に向けたビジネスとして、企業に人材を派遣したり、業務の一部を請け負ったりしています。

サービスを生産するビジネスは、生産する企業が消費者や企業に直接サービスの提供を行うのが特徴です。



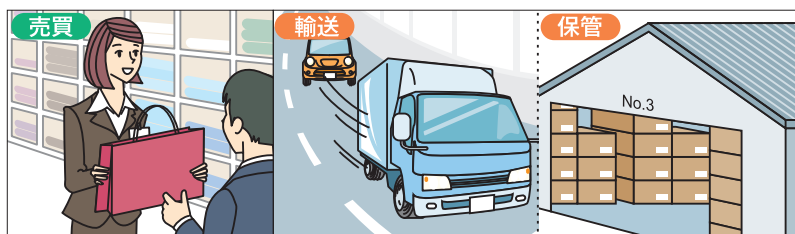
3 ものを消費者に流通させるビジネス

1 売買のビジネス^①

生産者が生産した商品は、**卸売業者**へ
経るなどして、**小売業者**で販売され、
わたしたちの手に渡ります。卸売業者は、生産者と小売業者の間に
あり、小売業者が求める商品を生産者から仕入れ、小売業者に販売
しています。小売業者には、個人商店やショッピングセンター、百貨店など、いくつかの形態があり、店舗ごとにそれぞれ工夫を凝らした方法で販売します。

2 輸送・保管のビジネス^②

運送会社は、ものの**輸送**（transport）を必要とする企業に対して、一括して輸送したり、宅配便による輸送を行ったりしています。また、倉庫会社では、ものの**保管**（storage）を必要とする企業に対して、倉庫の貸し出しなどをして、ビジネスの効率化をはかっています。



4 生産・流通・消費をより円滑にするビジネス

1 金融のビジネス

銀行は、資金を必要としている企業に対して、**資金提供**をしています。企業は資金が増えることで、ビジネスの幅がひろがります。また、保険会社は、損害の発生が予想される多くの企業から保険料を集め、実際に損害が発生したときに集めた保険料で損害の埋め合わせをします。企業は、**保険**（insurance）に加入することで、安心してビジネスができます。資金提供や保険など、資金を融通するビジネスを**金融**（finance）といいます。

2 情報通信のビジネス

情報化が進むこんにちでは、企業における情報の収集・発信、システム開発などの分野を手助けする**情報通信**（information and communications）のビジネスが重要です。また、インターネット接続サービスや携帯電話サービスといった企業と消費者に向けたビジネスも行われています。

① 商品を売買するビジネスを**商的流通**（▶ p.49）といいます。

② ものを輸送したり、保管したりするビジネスを**物的流通**（▶ p.49）といいます。

ものの流通には二つの意味があるんだね。



5 ビジネスとは

このように、わたしたちの周りには、いろいろなビジネスが存在しています。そして、相互にかかわりあいながら発展して、新しいビジネスをつくり出しているのです。

このようなビジネスについてまとめると、「**ビジネスとは、生産・流通・消費という経済のしくみのなかで、利益の獲得を目的として企業が^{おこな}う事業活動**」ということができます。

5



6 ビジネスの役割

これまで学習してきたように、こんにちでは、さまざまなビジネスが存在しますが、どのビジネスにも共通していることがあります。それは、ビジネスが経済の原動力となり、わたしたちの生活を便利にし、豊かにする役割を果たしているということです。

わたしたちは、消費者として、生きる上で欠かせないものから「もしあったらいいな」と思うものまで、幅広いニーズはばひろ ニーズ*1 needsをもっています。そのようなニーズを満たすために、ビジネスは欠かせません。

ビジネスが発展・拡大すれば、人々の働く場所が増えて、収入も安定することから、みんなが安心して生活できる社会が実現します。ビジネスによって得た利益の一部は、企業の出資者に分配されます。これを受け取った人は、さらに大きな利益を生み出しそうなビジネスに投資することにより、ビジネスは拡大します。

また、企業は利益をためておいて、これをよりよい商品やサービスの開発に使ったり、人々が求める新しい分野のビジネスを起こしたりして、わたしたちの生活をより豊かにします。

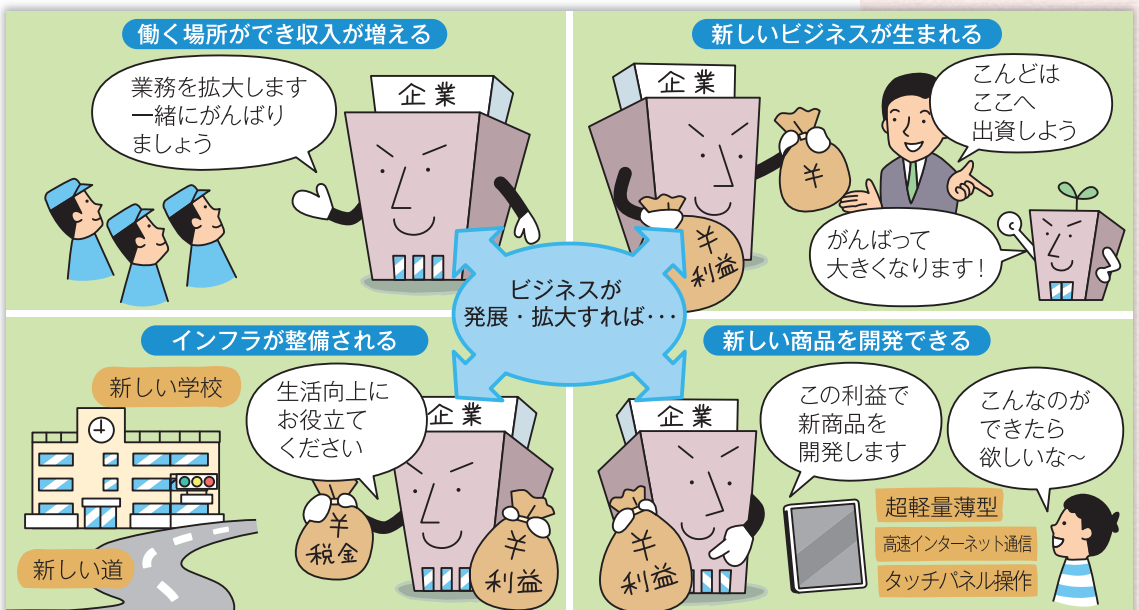
一方、企業はビジネスによって得た利益から税金を納めます。その税金によって、道路や学校などのインフラいっぼうは整備され、わたしたちの生活はより便利になり、生活が向上します。

Word

*1 ニーズ

必要だと思ったり、欲しいと思ったりする気持ちのことです。

① インフラストラクチャーの略です。生活や経済活動を支える基盤となるものをさします。インフラを整備することは、政府が提供する公共サービスふくみくに含まれます。



3

経済活動の基本的な考え方

ビジネスにおける経済活動は、次に述べる基本的な考え方を学習することで、その内容やしぐみを理解できるようになります。この基本的な考え方は、ビジネスだけでなく、わたしたちの日常生活における判断や行動にも活用できます。

5

1 商品をつくるために必要なもの

企業が商品を生産してビジネスを行うためには、何が必要になるか、考えてみましょう。

まず、「土地」が必要です。ここでいう「土地」とは、工場や事務所などを建てる土地のほか、land 鉱物・水といった天然資源をさしています。次に、商品の生産に用いられる工場、部品、機械、道具などの「資本」が必要です。そして、商品を生産する従業員などの「労働力」が必要です。この「労働力」には、工場の作業員のような商品を直接生産する人だけでなく、ビジネスに必要な知識や情報を活用できる企画立案者や経営者などの人材も含まれています。こうした「土地」・「資本」・「労働力」を^①生産要素factors of productionといいます。

10

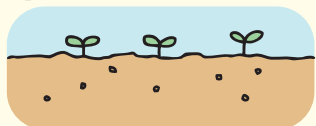
15

① 生産の三大要素ともいいます。

生産要素

土地

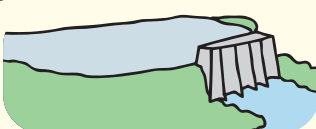
土地



鉱物

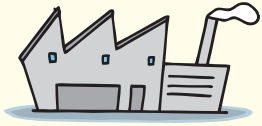


水

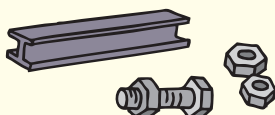


資本

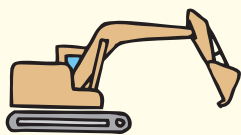
工場



部品

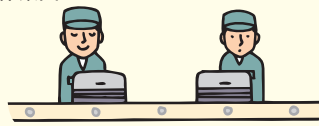


機械



労働力

作業員



企画立案者



経営者



2 生産要素には限りがある

消費者の欲しがる商品を企業が生産し、その商品を消費者が購入することで、ビジネスは成り立っています。しかし、生産要素には限りがあるため、消費者の欲しがるすべての商品を生産することはできません。このように、消費者の欲しがるすべての商品を生産するのに十分な生産要素がないことを、生産要素の^{きしょうせい}**希少性**① scarcity **CASE** といいます。

企業は、消費者が欲しがる商品は何かを考え、生産要素を効率的に使い、どんな商品をどれくらいの量つくるかを選択しています。

① わたしたちの欲求が無限であることに対して、生産要素や生産される商品が有限であることを希少性といいます。

CASE 生産要素の希少性とわたしたちの欲求

わたしたちは「いろいろなものが欲しい」「好きなものがたくさん欲しい」という欲求を常にもっていますが、現実にはあきらめなければならない欲求がたくさんあります。なぜわたしたちのすべての欲求はかなえられないのでしょうか。

それは生産要素に限りがあるからです。地球上の土地は一定の広さしかありませんし、そこで生み出される商品は無限ではありません。また、商品を生み出すための原材料や労働力も無限ではあ

りません。無限の欲望に対して、有限の生産要素をどのように使うか。この問題を考えることが経済活動について考える出発点です。



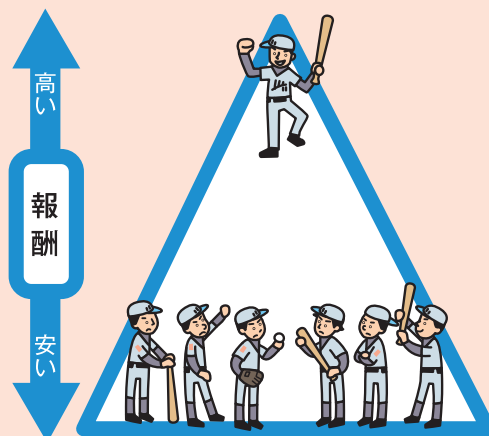
コラム 希少性と価格 ―水とダイヤモンド―

希少性と価格の関係を知るために、水とダイヤモンドを比べてみましょう。

水は人間が生きていくために欠かせないものですが、日本では安い価格で手に入ります。一方、ダイヤモンドがなくても人間は生きていけますが、価格はとても高くなっています。これはダイヤモンドの埋蔵量が水に比べてとても少なく、希少性が高いためです。このことから希少性が高いものほど価格も高くなることがわかります。

希少な生産要素には、他人にない能力なども含まれ、それをもっている少数の人(プロスポーツ選手など)は高い報酬が得られます。みなさんも学習や部活動などを通じて、ほかの人にはない希

少な能力を身につけられるように、日々の生活で意識することが大切です。



3 ビジネスは選択の連続

生産要素が希少なため、企業はさまざまな選択をしています。資金が限られている状況で、A商品とB商品のどちらを販売したほうがよいのか、どの事業を拡大あるいは縮小すればよいのか、また、海外に進出すればよいのか、国内の事業に専念したほうがよいのかなどの選択をすることが、例としてあげられます。

このように、どちらか一方を選択すれば、もう一方をあきらめなければならない状態を、**トレード・オフ**① trade-offs といいます。また、選択しなかったもう一方の選択肢を選んだときに得られるであろう価値、つまり、トレード・オフによってあきらめなければならない価値を、**機会費用**② opportunity cost といいます。何かを選択する際には、あらゆる選択肢について、「直接的に支払う金銭」と「機会費用」という二つの費用を考慮し、よりよい選択をするようにつとめなければなりません。特にビジネスにおいては、より損失の少ないほうを選択する必要があります。これを「合理的な選択」といいます。

ビジネスでは、限られた条件のなかで、複数の選択肢のなかからより合理的な選択肢を選び続けることが必要なのです。

① トレード・オフは、選べる選択肢が二つ以上あり、その選択肢を同時に選べないときに発生します。高校卒業後の進路について、進学が就職か選ぶ状況もトレード・オフです。

② 上の①の例において進学を選んだ場合、入学金や授業料などは「直接的に支払う金銭」であり、就職していれば得られたであろう収入（給料）などが「機会費用」です。



コラム 土地利用におけるトレード・オフと機会費用

農業を営むAさんが所有している土地は、以前から水田として利用され、そこでは米が生産されてきました。しかし、最近米の消費量が減少傾向にあるというニュースをみて、その土地を水田から野菜をつくるための畑にかえようという考えが浮かんできました。

土地は無限の広さがあるわけではありません。農家は限られた土地で、どの作物をつくるのか選択をしています。つまりこれはトレード・オフです。Aさんは、このまま米をつくるほうがよいのか、それとも野菜につくりかえるほうがよいのか考えて、選択しなければなりません。では、いったい何を基準に決めればよいのでしょうか。このようなとき、機会費用の考え方が重要になります。Aさんは、米をつくり続けたときに得られるであろう利益と、野菜をつくれれば得られるであろう利

益を比べた結果、米をつくり続けることを選択しました。野菜の生産から得られる利益（機会費用）よりも、米の生産から得られる利益が上回っていたからです。

米をつくり続けることを選択したAさんは、この後、どの品種の米をつくるのか、どの肥料や農薬を使うのかなど、あらゆる選択をし続けなければなりません。

また、土地利用について選択するのは、農家だけではありません。たとえば、企業がもっている商業地域の土地でも、自社の事務所をつくるか、貸し店舗をつくるか、駐車場をつくるかなど、さまざまな選択肢があります。つまり、これもトレード・オフであり、それぞれの機会費用を考慮し、合理的な選択をしなければなりません。

4 価格と合理的な選択

企業やわたしたち消費者は、ふだんどのような^{せんたく}選択をしているのでしょうか。

わたしたち消費者は、商品の価格をみて、限られた資金
5 のなかでその商品をどれくらいの量だけ購入^{こうにゆう}するか選択しています。同じように、企業は商品の価格を考えて、その商品
を売ろうとする量を選択しています。

商品の価格が高ければ、企業はよりたくさんの量をつく
って売りたいと考えます。しかし、価格が高すぎるとは消費
10 者に買ってもらえず、売れ残りなどで損をします。つまり、
企業は損をしないための合理的な選択をすることが求めら
れるのです。

一方、消費者も無駄^{むだ}な買い物をしないような合理的な選
択^{おこな}を行います。その結果、価格によって^{じゅうりょう}需要量^①と^{きょうきりょう}供給量は
15 増減し、最終的に需要量と供給量^{いっち}が一致する価格で商品の
取引が成立します。

5 商品の価格が変化する理由

ところで、商品の価格以外の要素が変わると、需要量や
供給量はどうなるのでしょうか。

たとえば、天候不順により野菜^{しゅうかく}の収穫量が落ちると、同
じ価格のままでは、供給できる量が少なくなります。その
ため、この野菜の価格は上がります。また、人々の所得が
減った場合は、同じ価格でも買える量は減ってしまうため、
価格は下がります。これらの変化は、需要曲線と供給曲線
25 が移動することからも確かめることができます。^②

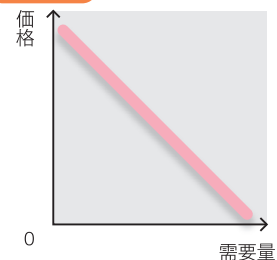
このように、需要と供給は価格と関連しています。それ
は商品に希少性^{きしょうせい}があるからにほかなりません。空気や海水
など無料で手に入れられるものは、わたしたちが欲しが
る以上に存在しており、希少性がないため商品とはならない
30 のです。

① 消費者が商品を買いたい
と思う欲求を需要^{よつきりょう}とよび、
企業が商品を売りたいと思
う欲求を供給とよびます。

需要曲線と供給曲線

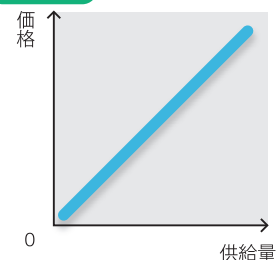
需要量と価格の関係を表したグラフ
を需要曲線、供給量と価格の関係を
表したグラフを供給曲線といいます。

需要曲線



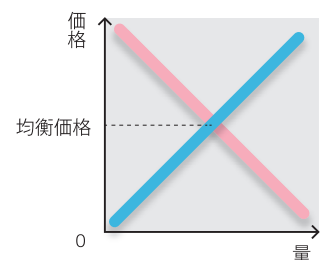
価格が安くなるほど、需要量は増え
るので、右下がりの曲線になります。

供給曲線



価格が高くなるほど、供給量は増え
るので、右上がりの曲線になります。

二つの曲線をあわせたものが下のグ
ラフです。



② 需要曲線と供給曲線が
移動することを「シフト」
とよびます。



コラム

需要曲線と供給曲線のシフト

次の(1)から(4)のように、価格が同じままでも需要量と供給量に変化することがあります。

(1) 需要曲線が右上にシフトする場合

需要者の所得しやどくが上がり、消費に使える金額が増えた場合には、「高くても」「より多く」商品を買うようになります。

(2) 需要曲線が左下にシフトする場合

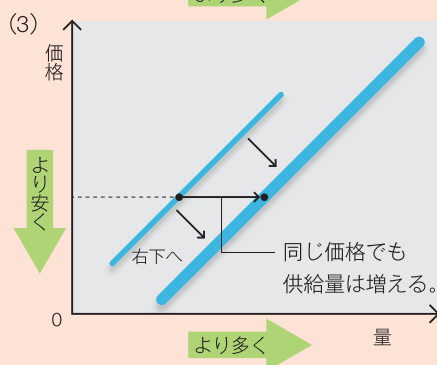
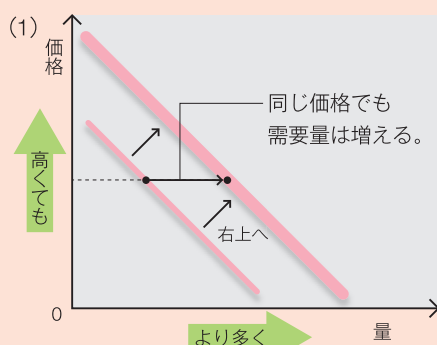
その商品に対する人気おとろが衰えた場合などにみられます。

(3) 供給曲線が右下にシフトする場合

生産のための技術が進歩することにより、「より安く」「より多く」の商品を供給できるようになります。

(4) 供給曲線が左上にシフトする場合

原料費や生産費が上昇した場合にみられます。



確認問題

経済のしくみとビジネス

1——次の文章を完成させましょう。

- (1) こんにちは、わたしたちが豊かで便利な生活を営めるのは、さまざまな商品を効率よく(①)する活動や、生産地から消費地まで届ける(②)の活動が行われているからです。①・②・消費という一連のつながりを(③)といいます。
- (2) 企業がビジネスを行うために必要な(④)・(⑤)・(⑥)を生産要素といいます。
- (3) 生産要素に限りがあるため、消費者の無限の欲求を満たすすべての商品を不足なく生産できないことを生産要素の(⑦)といいます。
- (4) 商品が売買されるときに、商品を買いたいと思う欲求を(⑧)、商品を買いたいと思う欲求を(⑨)といいます。

調べ学習

- 生活のなかで、「トレード・オフと機会費用」の考え方があてはまることをあげて、話しあってみましょう。